

日本声楽発声学会

2018 年度 夏季研修会

日 時：平成 30 年（2018 年）8 月 20 日（月）・21 日（火）

8 月 20 日（月）－ 講座開始：12：55 ～ 17：20（受付開始：12：30）

8 月 21 日（火）－ 講座開始：10：00 ～ 終了時刻：15：30

場 所：日本福音ルーテル東京教会（JR 新大久保駅下車）

東京都新宿区大久保 1-14-14（会場への電話はご遠慮ください）

（お願い）

- ① 携帯電話等音の出るものは電源をお切りください。
- ② 録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。

（なお、本学会では記録用として録音録画はしますが、それ以外は個人のプライバシー保護のため、厳禁といたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。）

ご挨拶

向暑の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。今年も下記の要領で、2018年度夏季研修会を開催する運びとなりました。全国から集まってくださいます皆さまに、実りある研究のご提供が出来ますようにと、知識、見識深い講師の先生方に講演をお願い致しました。また2日目の「歌の集い」には、自ら応募していただきました会員の方々に演奏会を催します。有意義な2日間となりますよう期待いたします。

会長 永井和子

プログラム

総合司会 佐々木正利（副会長）

第1日 8月20日（月）

開会挨拶 永井和子（12：55 ～ 13：00）

◎ A講座 現代日本の作曲家シリーズ講座Ⅴ 13：00～15：00

司会 川上勝功

講演テーマ： 声楽作品の価値

会場 2階礼拝堂

講師 青島 広志氏（あおしま ひろし）（東京藝術大学講師）

演奏曲目 《少女の季節》

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1月 元旦の夜（松岡理美） | 2月 バレンタイン（講座参加者全員斉唱） |
| 3月 三月蝶々（松岡理美） | 4月 新学期（松岡理美） |
| 5月 軒端のつばめ（佐々木笑美子） | 6月 儼 |
| 7月 夏休み | 8月 線香花火 |
| 9月 銀杏 | 10月 かぐや姫（佐々木笑美子） |
| 11月 晩秋の窓辺 | 12月 クリスマス（佐々木笑美子） |

（2月バレンタインの楽譜は、当日学会が用意いたします。）

《オペラ「サド侯爵夫人」》から

ルネのアリア “アルフォンス・・・私が”（木村弥素子）

演奏者 松岡 理美（ソプラノ）（まつおかりみ）
佐々木 笑美子（ソプラノ）（ささき えみこ）
木村 弥素子（ソプラノ）（きむら やすこ）
北澤 良子（ピアノ：松岡）（きたざわりょうこ）
早川 揺理（ピアノ：佐々木/木村）（はやかわ ゆり）

概要

歌曲とは内的な心情の吐露であり、アリアとは外交的な感情の爆発であろう。それが現代日本においては認識が薄くなり、或いは逆となる傾向が生じている。尤（もっと）も、どのようなタイプの作品が生まれても構わない、という意見も有りえるが、全ての音楽作品の歴史の積み重ねの上に作られるのだから、心ある音楽家は冒頭に述べた事実をまず胸に留めておく必要がある。

両者を能（よ）くする團伊久磨の述懐によれば、師の山田耕筰の「黒船」に対し、アリアが長大すぎないかとの問いに「オペラは拡大するものだ」と答えられ、それを不満に感じたそうだが、当人の後期のオペラ「タケル」「スサノオ」などは、まさしくその轍（てつ）を踏んでいる。

また、近年多くの合唱曲がポピュラー寄りとなり、細分化されたリズムを持つが、これまた本来の合唱部の書き方ではない。そのピアノパートについても然り。マイクによる増幅を考えに入れなければ効果が出ないように書かれているのである。その為か、21世紀に入ってから歌曲・アリア・合唱曲は、その独自の力を失い、スタンダードであるべき姿から離れてしまった。

永年、声楽の世界に身を置き、作曲・編曲・伴奏・指揮・演出・解説を一手に引き受けて来た現場から得た問題を、今こそ声楽家諸氏と共に考えてみたいと思う。私たちは自らが表現者であると同時に、指導者でもある。その掲げる方向性が、周囲の楽徒を動かすのである。

私は終始そのように念じて創作を続けて来たが、しかし周囲はそれに興味を示さず、次第に作曲家としての位置は危うくなり、その曲も忘れられようとしている。多くの出版物が絶版となったこともそれを示している。しかし、皆さんの記憶にほんの少しの澱（おり）が残っている限り、わが作品たちは存在する価値があったのだと、初老に達した今、少しは省（かえり）みられるのではないかと思う。

プロフィール

青島 広志氏

1955年東京生まれ。東京藝術大学および大学院修士課程を首席で修了し、修了作品のオペラ「黄金の国」（原作：遠藤周作）が同大図書館に購入され、過去2回の東京都芸術フェスティバル主催公演となる。作曲家としては「火の鳥」（原作：手塚治虫）、「黒蜥蜴」（原作：三島由紀夫）、管弦楽曲「その後のピーターと狼」、合唱曲「マザーグースの歌」、ミュージカル「11ぴきのネコ」など、その作品は200曲を超え、ピアニスト・指揮者としての活動も40年を超え、最近ではコンサートやイベントのプロデュースも数多くこなしている。NHK「ゆかいなコンサート」の初代監督を8年務め、現在もNHKラジオ「みんなのコーラス」「高校音楽講座」にレギュラー出演のほか、テレビ朝日「題名のない音楽会」、日本テレビ「世界一受けたい授業」、テレビ東京「たけしの誰でもピカソ」、TBSラジオ「こども電話相談室」にも出演。著書に『モーツァルトに会いたくて』『青島広志でございます！』『あなたも弾ける！ピアノ曲ガイド』（学研プラス）、『やさしくわかる楽典』（日本実業出版社）、『作曲ノススメ』（音楽之友社）、『21世紀こどもクラシック』（全5巻・小学館）、『音楽家ってフシギ』（東京書籍）、

『オペラ作曲家によるヘンなオペラ超入門』『作曲家の発想術』（ともに講談社）などがある。東京藝術大学講師、洗足学園音楽大学客員教授、日本現代音楽協会、作曲家協議会、東京室内歌劇場会員。

松岡 理美氏

大阪音楽大学声楽学科卒業。日本テレマン協会ではソリストとして多くのオラトリオやカンタータを演奏。その後劇団四季に入団し全国で活躍。現在は様々なジャンルの音楽を演奏活動中。

佐々木笑美子氏

武蔵野音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラ研修所第 50 期修了。鶴見大学短期大学部音楽実技助手。二期会会員。

木村弥素子氏

日本大学芸術学部音楽科声楽コース首席卒業。第 88 回読売新人演奏会に出演。

◎ B講座 F. フースラー研究者による研究発表講座 15 : 20~17 : 20

司会 泉 恵得

講演テーマ :

『うたうこと』(F・フースラー/Y・R・マーリング著、須永義夫/大熊文子訳)の読み方

会場 2階礼拝堂

講師 移川 澄也氏(うつしがわ すみや)(バリトン、ヴォイス・トレーナー)

概要

『うたうこと』は、我々が入手できる歌声育成の指導書として最も優れた「実践の書」である。それは邦訳の「歌声のひみつを解かぎ」を原著が次のように記していることから分かる。

ドイツ語版 Anleitung zum Aufschließen der Singstimme / 英語版 A Guide to the Unlocking of the Singing Voice

これを直訳すると「歌声の鍵をあけるための入門書」となる。即ち、原著は読まれることは勿論、記述に従って実践されることを意図して書かれたのである。

多くの歌手が歌声に問題を抱えている。我々日本人もその例にもれない。沢山の人間がヨーロッパに学びに行く。そして、自分達の発声が大きく誤っていると知らされる。このことは、日本声楽界の大問題なのだが、誰も指摘しない。解決の道は何処にあるのだろうか。

歌声の問題は、進化の過程で発声器官が言葉に乗っ取られたことが原因で起っている。

どの言語にも独自の語音作りの技術がある。だが、それに使われる発声器官の機能は狭い範囲にとどまっている。言葉を作り出した人間は数万年かけて発声器官の能力を衰退させてきた。故に、どの国の歌手も母国語の声に支配されている。我々の場合日本語特有の「締めつけ声」が歌声を支配している。

フースラーは、万国共通のこの問題に「生理学的に正しい発声器官の用い方」と云う考え方を『うたうこと』で提示している。そして、彼自身もその考え方に従って指導していた、と考えられる。『うたうこと』はその成果なのだ。

彼の説く訓練法は「発声器官の持つ多様な機能の覚醒と再活性」を目指している。それ故に、記述に従って実践しない限り「本当のこと」は分からない。それを分かるには、その訓練によって覚醒した体の理解を待たねばならない。

『うたうこと』の読み方は、どうやって覚醒した体を手に入れるかに懸っている。その覚醒の水準が理解の深さを決める。

我々は、『うたうこと』の記述から実践の手がかりを先ず見つけなくてはならない。基礎原理を知り名歌手の声に耳を傾け、「解剖と生理」の内容に叶ったやり方を工夫するしかない。その気で捜すならば『うたうこと』の中には実践のヒントは幾らでも隠されている。

プロフィール

移川 澄也氏

1942年旧満州国に生まれる。小中学校時代は美術の方面に関心が強かったのだが、合唱の盛んな神戸高校に進んだことで歌声に興味を持つようになり、東京藝術大学音楽部声楽科に進学した。

中山悌一に師事。在学中に、当時外人教師として招かれていたR.リッチの指導に接し、3年次の春にバスよりバリトンに変わった。安宅賞、藝大メサイア独唱者、読売新人演奏会出演等の成績で大学生活を終える。卒業後は郷里でA.バランドーニの指導を受けていたが、好結果が得られない時にフースラーの理論に出会い、(故)木下武久の教えを受けるようになった。1968年頃であった。上京し、彼の助手となる傍らヴォイス・トレーナーとして多くの学生を教える数年を送った。その後1974年にイタリアに渡り、ミラノでヴェルディ養老院のL.ベッロンに出会う。イタリア滞在は2年弱であったが、帰国後は1、2年おきに彼の元に通う10年余りの年月が続いた。彼の死後、A.プロッティ、H.フェルラーロ、A.ポーラ、B.ルーフォ、L.サッコマーニの指導を受け、現在に至る。

全日本合唱連盟の発声講師としての20年程の間に多く合唱団を指導。コンクールの審査も務めている。2006年C.L.リードの『声楽用語辞典』を翻訳出版。本年5月には10年余りの原著参照の成果として『もうひとつのうたうこと』(F.フースラーは原著をどのように書いているか)を出版の予定。

第2日 8月21日(火)

◎ C講座 音声生理学講座 10:00 ~ 12:00

司会 西浦美佐子

講演テーマ：臨床医の立場から実証例、声を守るための一提言
—声の悩みと向きあって35年—

会場 1階会議室

講師 文珠 敏郎氏 (もんじゅ としろう)

(医学博士 南大阪音声クリニック特別顧問)

概要

耳鼻咽喉科を標榜し診療する傍ら声の悩みの相談医として 35 年。声楽家をはじめ声の使用を主とする職業的音声使用者の“声の悩み”に永い間向き合って参りました。

診療をするに当っては一般の患者さんの診療手順と大きな違いはありませんが、少し視点を変えて対応しなければならぬ処もあります。例えば、声の使用のジャンルが違えばそのジャンル独自の発声状況を理解して対応することが必要になります。会話などを主とする話声発声、歌をうたう事を主とする歌唱発声についても同様です。

いろいろなジャンルにある“声の悩み”と向きあって来て、やはり“声楽家”の診療が一番むつかしいと言うのが実感です。

今回の講習会ではプロ、アマの声楽家の方々が受講されますので“声楽家の声の悩み”を主題にお話をさせていただきます。

何がどう難しいかという点につきましては、講演で述べさせて頂くとしまして、診療手順を進めて行く上での難しい点をいくつか挙げてみました。

- ・ 声の悩みを持つ御本人が一番訴えたいことは何か
- ・ 声の悩みの本質は何か
- ・ 訴える悩みの内容が分かり、次に予測する所見がイメージできるか
- ・ 悩みの本質に適合した所見かどうか
- ・ 解決策（治療法）の模索
- ・ (悩み解消後に) 声の悩みに至った経緯、そして原因、誘因を分析

一通りの診療手順をクリアすることで一件落着となりますが、その後のフォローも非常に大切です。同じ声の悩みを再来（再発）させないため全身管理、及び局所管理などの衛生指導や、更に日頃から声を傷めないための知識を持ってもらう為の助言や指導も大切です。

“声”は声楽家、特に芸術レベルにある方、又その過程にある方々にとって「声は命の次に大切」です。

このような“むつかしい声の悩み”を真摯に取り組んでいけば、喜んで頂ける結果が出ると信じて 35 年やって来られたと、今は感謝です。

プロフィール

文珠 敏郎氏

昭和 37 年 大阪医科大学卒業、翌年京都大学医学部耳鼻咽喉科入局する。

聴覚研究グループ所属、日本オージオロジー学会（現日本聴覚医学会）所属し、後迷路性難聴鑑別診断法に関する研究、学位を取得する。

その後、天理よろず相談所病院、近畿大学医学部耳鼻咽喉科に勤務。

昭和 57 年 大阪阿倍野区で耳鼻咽喉科診療所開設。声の悩みの相談コーナー（音声クリニック）を併設する。

平成 28 年 病気療養のため閉院。

現在、南大阪音声クリニック、小文式音声訓練研究所、特別顧問である。

◎ D講座 「歌の集い」 演奏会 (日本声楽発声学会会員による演奏会)

(開場 12:30) 13:00 開演 ~ 15:30 終了予定 司会 豊田喜代美
会場 2階礼拝堂 入場料 2,000円

第1部

齊藤 祐 (テノール) / (小坂圭太)

ヴォルフ作曲 《メーリケ歌曲集》より <少年鼓手>他

浅香 貴子 (ソプラノ) / (爪川絵美子)

ベッリーニ作曲 歌劇《夢遊病の女》より <ああ 信じられないわ>他

宮城 朝陽 (テノール) / (林翔子)

プッチーニ作曲 歌劇《ラ・ボエーム》より <冷たき手を>他

大垣 ひで美 (ソプラノ) / (前田佳世子)

前田佳世子作曲 谷川俊太郎作詞 <夜はやさしい><わかんない>他

永原 恵三 (指揮) コール淡水・東京 / (鈴木ゆか)

林光編曲 《男声合唱による日本抒情歌曲集》より <中国地方の子守歌>他

* () 内はピアニスト

第2部

レクチャー・演奏

永井 和子 (ソプラノ) (ピアノ 永井 譲)

講演テーマ：うたうこと、聴くこと、その感覚の捉え方

講演内容：音声はその人の「感覚」が拠り所になる。その訓練のための指導用語と内容の紹介。

演奏曲：シューベルト作曲 <さすらい人の夜の歌> 他

プロフィール

永井 和子氏

大阪音楽大学卒業。主に関西歌劇団にて「フィガロの結婚」「椿姫」「蝶々夫人」等約30曲の主演を演じる傍ら、ドイツリート、日本歌曲を研究、国内外においてリサイタル多数。必然的に「発声」に興味を持ち、ライフワークとして約40年余りを歌うことを通してその研究に傾倒、今日に至る。日本声楽発声学会会員歴45年。大阪音楽大学名誉教授。神戸市文化賞、兵庫県文化功労賞、兵庫県文化賞各受賞。

永井 譲氏

関西学院大学法学部卒業。大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪音楽大学名誉教授。

* I部、II部とも演奏曲目、その他講演に関する詳細は、当日お配りしますプログラムをご参照ください。

2018 年夏季研修会参加要領

◎ A、B、C 講座の聴講料（3 講座すべて事前申込した場合は料金が 2 割引になります。）

	正会員	学生正会員	臨時会員	高校生以下
1 講座のみ	2,000 円	1,000 円	3,000 円	500 円
2 講座のみ	4,000 円	2,000 円	6,000 円	1,000 円
3 講座全て	4,800 円	2,400 円	7,200 円	1,200 円
当日料金	6,000 円	3,000 円	9,000 円	1,500 円

◎ D 講座 第 12 回「歌の集い」入場料 2,000 円（会員種別にかかわらず同一）

◎ A、B、C 講座の聴講および、D 講座「歌の集い」の申込方法

※ 事前振込の締切 8 月 14 日（火）迄

（それ以降は、当日受付にて上記の当日料金をお支払いください。）

聴講の申込は、ゆうちょ銀行の払込取扱票（青色）にて 00170-0-119920（加入者名：日本声楽発声学会）へ、見合った金額をお振込みください（振込料は各自ご負担ください）。通信欄に、①どの講座（A、B、C）を聴講されるか、および D 講座「歌の集い」を入場かどうか、②会員種別（「正会員」、「学生正会員」、「臨時会員」、「高校生以下」のどこに属するか）、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。聴講料の払込をもって参加の申込とさせていただきます。

日本声楽発声学会事務局（担当：安原道子）

〒215-0003 神奈川県川崎市麻生区高石4-11-14-409（安原）

E-Mail：info@jars-voice.org Tel/Fax：044-577-2037

日本声楽発声学会Webサイト <http://www.jars-voice.org/>

郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名：日本声楽発声学会

日本声楽発声学会

2018 年度 夏季研修会

2018 年（平成 30 年）7 月 10 日発行

発行者：日本声楽発声学会

編集者：永原恵三

印刷所：よしみ工産株式会社東京事務所 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 本郷富田ビル 3F